

式辞

学部新入生の皆さん、そして大学院に入学された皆さん、ご入学おめでとうございます。

また、これまで新入生の皆様を励まし、支えてこられたご父母をはじめとする関係者の皆様にも、心からお祝いを申し上げます。

本日、千川通りや武蔵学園内の桜が咲き誇るなかで、ご来賓の皆様のご列席のもとに、平成二十七年の入学式を挙行できますことは、私ども教職員をはじめ本学関係者にとり大きな喜びとするところであります。

武蔵大学は、今から九三年前、一九二二年、大正十一年に設立された我が国最初の私立七年生高等学校である旧制武蔵高等学校をその前身としています。戦後、学制改革が行われるなか、一九四九年に武蔵大学が誕生しました。以来六六年、武蔵大学は、旧制高等学校から続く伝統を踏まえ、ゼミナールを中心とした高い質の教育を行ってきました。学部新入生の皆さんはこれから四年間、大学院生の皆さんは所定の期間を、こうした武蔵大学の伝統を十分に理解して、充実した大学生活をすごして下さい。

さて武蔵大学には、旧制高等学校以来掲げてきた「建学の三理想」があります。これは、本学の教育で育成すべき人物像を示した三つの理想です。すなわち、第一に、「東西文化融合のわが民族理想を遂行し得べき人物」、第二に、「世界に雄飛するにたえる人物」、そして第三に、「自ら調べ自ら考える力ある人物」です。

また本学では、大正時代に作られたこの「建学の三理想」を踏まえつつ、現在の武蔵大学が目指す教育の三つの目標を定めています。この三つの目標とは、「自ら調べ自ら考える（自立）」、「心を開いて対話する（対話）」、「世界に思いをめぐらし、身近な場所実践する（実践）」です。これら三つの目標について、学部の新入生の皆さんに向けてお話しします。大学院生の皆さん、自らの立場に置き換えて聞いて下さい。

第一の目標、「自ら調べ自ら考える」とは、主体的に、また創造的に考えることのできる人物を育てようということです。高等学校までの学習の中心は、さまざまな知識の記憶や、予め定められた正解にたどりつくための思考方法の訓練であったと思います。こうした学習も、もちろん必要です。しかし、皆さんがこれから大学で行う勉学は、これに止まるものではありません。

大学の授業において、興味をもって学び高い成果をあげるためには、ただ受動的に授業を聞くのではなく、授業でとりあげられるテーマについて自分自身で問題を発見し、それを自ら主体的に考え抜くことが重要です。

学問は単なる知識の集積ではありません。日々、新しい考えが示され、従来の通説

が見直されることもしばしばあります。学問研究の第一線で活躍している本学の教員に対して、皆さん自身の疑問を問いかけ、自分の考えを示してみてください。それによって皆さんも学問の神髄に触れることができるでしょう。大学とは、このように自ら積極的に、生き活きと学ぶ場に他なりません。

また、「自ら調べ自ら考える」力は、皆さんが大学生活を終えて社会で活躍する際にも大変重要となる力です。社会人となった皆さんが直面し解決を迫られる問題には、予め決まった解き方も答えもありません。自分自身で積極的に情報を調べ、自ら考え抜いて新たに答えを導きださなければなりません。大学での勉学を通じて、この力を十分に身に付けて下さい。

次に、本学の教育の第二の目標、「心を開いて対話する（対話）」についてお話ししましょう。

ここでいう「対話」とは、友達同士での気晴らしのための会話のことではありません。相手の気持ちや話の内容を正確に深く理解し、自分の気持ちや言わんとすることを的確に相手に伝えるコミュニケーション能力のことです。このような「対話」を行うためには、お互いの心理や置かれている状況の理解力が必要となります。またそれだけではなく、相手の主張を論理的に捉えなおして理解する力や、相手が理解できなかったりで自分の考えを組み立て、これを伝える力が必要となります。こうした真の意味での「対話」力、コミュニケーション力は、今後皆さんが社会に出た場合に必ずもとめられるものだといえます。

武蔵大学には、「自立」して考える力や「対話」する力を育て上げる場が数多く用意されています。特に、一年次から四年次まで履修するゼミナールでは、自分自身が調べたり考えたりしたことを教員や学友に対して発表し、討論するというかたちでこの二つの力を育てることができます。主体的に学ぶことのできるさまざまな授業に積極的に取り組み、これらの力を大いに伸ばしていきましょう。

その際、七十万冊以上の蔵書を誇る大学図書館を積極的に活用することをおすすめします。現在ではスマホやパソコンを使って様々な情報を得ることができますが、生の書物や資料に触り、それらをじっくりと読み込むことは、学問の原点でもあります。図書館に常設されているパソコンに向かいながら、書籍や資料を読み込むという学習姿勢をぜひ身につけて下さい。また、本学図書館には「ディスカッションスペース」という、資料やインターネットなどさまざまな情報源を活用して、それについて討論しながら学習できる空間もあります。こうした施設を有効に活用して自立的思考力と対話力を豊かに培ってください。

第三の教育目標、すなわち「世界に思いをめぐらし、身近な場所で実践する（実践）」については、次のことをお話ししておきましょう。

皆さんもご承知のように、二〇世紀末からグローバル化が大いに進み、今後その流れは一層加速していくことでしょう。皆さんが社会の中核的人材として活躍する十年、二十年後には今では想像できないほどグローバル化した社会となっていると思います。国際的な視点で物事を考え、それを職場や地域や家庭で実践することがますます重要になります。欧米の環境保護運動の中で生まれた標語に、「Think Globally, Act Locally」という言葉があります。「Think Globally、すなわち、地球規模で物事を考え」、「Act Locally、今、あなたが生きているその場所で実践しなさい」という意味です。グローバルに考え、身近な場所で実践する力をつけることが、これからの社会を支えリードする人物となるために必須の条件であるといえます。

では、そうした力をつけるために、皆さんは大学で何をなすべきなのでしょう。今まで述べてきた「自立」的な思考力や「対話」力は、国際社会で活躍するためにも大いに必要とされます。また、自分たちとは異なる社会や文化を理解すること、異なる生まれの人々を尊重し差別しないこと、いわゆる多文化共生の視点も重要です。そして、いうまでもなく外国語の力を充分に身に着けることも不可欠でしょう。

外国語学習に積極的に取り組み、外国語の力を大きく伸ばしてください。武蔵大学にはそれを支える仕組みが整っています。必修の授業だけでなく、「留学準備講座」など必修以外の授業にも積極的に参加して、外国語の力を向上させて下さい。

また、大学一号館三階には、武蔵コミュニケーションヴィレッジ、略称「MCV」という学習スペースがあります。ここでは、英語は大嫌いという人を対象とした初心者向けの会話レッスンから、より専門的なレッスンまで、さまざまなプログラムが用意されています。英語だけでなく、ドイツ、フランス、韓国、中国などとの文化交流プログラムもあります。

さらに今年から、外国語教育センターが主催する、正規の授業とは別の「TOEIC、スコアアッププログラム」も始まります。こうした授業外の様々なプログラムを活用して、どんどん外国語や外国の文化を学んで行って下さい。

学内で学ぶだけでなく、日本に居ながら武蔵に通いながら、アメリカの名門大学の授業を受けることもできます。武蔵大学はアメリカの名門州立大学であるテンブル大学の日本キャンパス、すなわち Temple University Japan Campus (略称 TUJ) と単位互換や図書館相互利用などの協定を結んでいます。夏には、TUJ の先生方による英語の集中授業、English Summer School が本学で開催されます。本日のこの入学式には TUJ 学長のストロナク先生が来賓としてご列席下さっています。

さらに、日本で外国語を学ぶだけでなく、ぜひ世界へとはばたいて下さい。世界に雄飛して下さい。夏と春には、三週間から五週間、集中して現地で外国語を学ぶ「外国語現地実習」があります。今年、イギリス、オーストラリア、フィリピン、ドイ

ツ、フランス、中国、台湾、韓国の各国で実施の予定です。また、半年から一年間、留学することもできます。現在、武蔵大学には留学の協定を結んでいる海外の大学や教育機関が先ほどご紹介したテンプル大学のフィラデルフィア本校を含めて一七校あり、これからも拡充していく予定です。

ところで、本学では、今年から「ロンドン大学と武蔵大学とのパラレルディグリープログラム、通称Popo」という教育課程を開始します。これは、ロンドン大学のカリキュラムを武蔵大学の先生が武蔵で教えることで、武蔵に通いながら、武蔵大学とロンドン大学の二つの学位を取得するというものです。日本の大学では初めての試みであり、まず経済学部でスタートします。

このプログラムに参加されるPopo一期生の皆さんは、ぜひ四年間しっかりと学んで、ロンドン大学の学位を取得して下さい。

人文学部や社会学部の皆さんも、それぞれの学部で新しい国際化のプログラムを検討中です。楽しみにして下さい。

以上、武蔵大学が目指す教育の「三つの目標」をご紹介しながら、本学の教育の特色について述べてきました。武蔵大学は勉強だけでなく、部活動やサークル活動にも長い歴史と伝統があります。きっと、皆さんお一人お一人にあった部活やサークルが見つかると思います。ぜひ、部やサークルでの活動、ボランティア活動などにも積極的に取り組んで下さい。

大学での四年間は今の皆さんにとっては、長いように思われるかもしれませんが。しかし、漫然と過ごしていると、成果をあげないまま、たちどころに終わってしまいます。大学院博士前期課程の二年間はなおさらです。四年後に卒業し社会に出るとき、あるいは、修士の課程を修了するとき、どのように成長した自分となっているのか、その姿を思い描いてみて下さい。そして、そのために皆さんに与えられた時間をどのような過ごしすべきかを、今からじっくりと考えて下さい。

高い目標を掲げ、それに向かって積極的にチャレンジすることで、皆さんに与えられた大学生活あるいは大学院生活を、後から振り返って悔いのない充実したものにして下さい。

そうした皆さんの努力を私たち教職員は全力で支え、支援致します。このことをお約束し、私の式辞の結びと致します。

二〇一五年、平成二十七年四月二日